

科目名			担当者	
C A D 設計Ⅱ			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的 と 到達目標	CAD 入門・CAD 演習Ⅰ・3次元CAD と合わせた4科目の合計60週を通してCAD 操作の訓練を行う。 習得度合いに応じて練習できるステップアップ・プログラム。 印刷図面からC A D データを制作する。
授業の概要 達成 課題	印刷図面から各部寸法を読み取り、平面図、断面図、立面図、矩計図をC A D データとして制作する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス jw-cad 操作の復習 第2週 鉄筋コンクリート造 1階平面図① 第3週 鉄筋コンクリート造 1階平面図② 第4週 鉄筋コンクリート造 2階平面図① 第5週 鉄筋コンクリート造 2階平面図② 第6週 鉄筋コンクリート造 断面図① 第7週 鉄筋コンクリート造 断面図② 第8週 鉄筋コンクリート造 立面図 第9週 鉄筋コンクリート造 かなばかり図 第10週 木造 配置図 1階平面図① 第11週 木造 1階平面図② 第12週 木造 2階平面図 第13週 木造 断面図 第14週 木造 立面図 第15週 木造 かなばかり図	
成績評価方法	提出課題にて評価する。
教科書	
参考書	
備考	完成データを教員用パソコンの指定されたフォルダに提出すること。 C A D 操作はもちろん、データの取り扱いに関しても評価をします。

科目名			担当者	
3次元CAD			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	45時間	必修 1.5単位	有

授業の目的 と 到達目標	3次元CADアプリケーションの操作方法を学び、2次元図面から3次元データを作成する技術を習得する。 3次元データを用いたプレゼンテーションテクニックを習得する。
授業の概要 達成課題	SketchUpによる3次元データの作成方法を身につける。 住宅の各図面から3次元データを作成する力を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 SketchUpの操作① 第2週 SketchUpの操作② 第3週 SketchUpの操作③ 第4週 3次元モデル作成（外観モデル）（RC造）① 第5週 3次元モデル作成（外観モデル）（RC造）② 第6週 3次元モデル作成（外観モデル）（RC造）③ 第7週 3次元モデル作成（外観モデル）プレゼンテーションデータ作成 第8週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）（木造）① 第9週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）（木造）② 第10週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）（木造）③ 第11週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）（木造）④ 第12週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）（木造）⑤ 第13週 3次元モデル作成（内観、外観、両対応モデル）プレゼンテーションデータ作成 第14週 3次元モデルを用いたプレゼンテーションデータの作成① 第15週 3次元モデルを用いたプレゼンテーションデータの作成②	
成績評価方法	提出課題にて評価する。
教科書	
参考書	
備考	完成データを教員用パソコンの指定されたフォルダに提出すること。 CAD操作はもちろん、データの取り扱いに関しても評価をします。

科目名			担当者	
建築ビジネス			中村 通	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	営業について知り、理解できるようになることを目的とする。 将来のビジネスプランをつくることができる。 営業技術の会話を理解できる。 販売技術の契約に関して理解できる。 広告技術のプレゼンに関して理解できる。
授業の概要 達成課題	将来、建築あるいは他業界に仕事を求めても自立できるように、経営、営業、会話、広告の基本と応用（ワークショップ-発表会）を実施。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス（営業の基本と心構え） 第2週 経営技術【ビジネスプランをつくる①】 第3週 経営技術【ビジネスプランをつくる②】 第4週 営業技術【営業会話の基本】 第5週 営業技術【営業会話の攻撃法】 第6週 営業技術【受注活動の基本（0から仕事を取る）】 第7週 営業技術【受注活動の応用（集客から増客へ）】 第8週 販売技術【マスコミとクチコミの技術】 第9週 販売技術【消費者心理と販売促進】（契約までのアプローチ法） 第10週 まとめ【第1週～第9週】 第11週 広告技術【建築図面のプレゼン技術①】 第12週 広告技術【建築図面のプレゼン技術②】 第13週 広告技術【会社案内・販売チラシの作り方①】 第14週 広告技術【会社案内・販売チラシの作り方②】 第15週 まとめ【最終回】発表会を中心に「自活」トレーニングと注意点	
成績評価方法	レポートで評価する。
教科書	授業で配布する。
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築積算Ⅰ			中野 良伸	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	実際の建築生産の過程において、積算は設計と施工を結ぶ重要な位置にある。積算方法を理解することにより、設計や施工に関する理解を深める。 ・ 建築物の工事費の算定について、適正な基礎知識を有する専門家の育成 ・ 前期終了後、建築積算士補試験に合格
授業の概要 達成課題	先ず、建築積算の概要と実務における役割、重要性を説明する。一般的に曖昧に捉えられがちな「建物本体価格」について解説する。 次に、鉄筋コンクリート造を取り上げ、各種工事の積算方法を説明する。使用材料の数量を算出後、積算資料を用いて金額の算出方法も解説する。工事種別ごとに算出方法が異なるのでその違いを明らかにする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 建築積算とは、建築生産プロセスの概要と建築積算、入札とは」 第2週 積算業務の概要、設計図書とは、工事費の構成 第3週 建築コストにおける数量と単価、内訳書とは、建築数量積算基準 第4週 実習、数量の計測。計算「土工」 第5週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・独立基礎・布基礎・基礎梁 第6週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・柱・大梁 第7週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・小梁・床板・壁 第8週 実習、数量の計測。計算「鉄骨」・・・柱・梁 第9週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・屋根・外壁 第10週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・内部仕上 第11週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・間仕切・開口部 第12週 実習、数量の計測。計算「内訳書」・・・工種別内訳書 第13週 実習、数量の計測。計算「内訳書」・・・値入の基本・まとめ 第14週 仮設工事・設備工事の積算、建築積算の応用分野 第15週 まとめ・積算士補演習問題	
成績評価方法	・提出課題で評価する。
教科書	積算協会のPCMシリーズⅢ「建築積算」
参考書	プリントを配布する。
備考	電子計算機を使用するので必ず持参すること。

科目名			担当者	
建築積算Ⅱ			中野 良伸	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	- 前期終了後、建築積算士補試験に不合格だった場合、積算士補の演習課題を再度確認する。 - 後期前半での建築積算士補試験を再度実施して、合格を目指す - 士補合格者は、建築積算士の二次試験に挑戦、合格を目指す。
授業の概要 達成課題	建築積算を通して建築技術者としての基礎知識の習得 それぞれ、個人の目標を立て、まずは建築積算士補の合格を目指す。 より、実践的な課題について、何度も数量の計測・計算をすることによって 確実性を養う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 建築積算とはから建築数量積算基準までの概要 第2週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・独立基礎・布基礎 第3週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・基礎梁 第4週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・柱 第5週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・大梁・小梁 第6週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・床板・壁 第7週 実習、数量の計測。計算「躯体」・・・躯体数量算出のまとめ 第8週 実習、数量の計測。計算「鉄骨」・・・柱 第9週 実習、数量の計測。計算「鉄骨」・・・梁 第10週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・外部仕上 第11週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・内部仕上 第12週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・間仕切・開口部 第13週 実習、数量の計測。計算「仕上」・・・仕上数量算出のまとめ 第14週 実習、数量の計測。計算「内訳書」・・・内訳書 第15週 まとめ・積算士試験の概要	
成績評価方法	提出課題で評価する。
教科書	積算協会のPCMシリーズⅢ「建築積算」
参考書	プリントを配布する。
備考	電子計算機を使用するので必ず持参すること。

科目名			担当者	
建築施工 I			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	建物生産の手順、必要な知識を理解する。 建物作業所において安全管理が出来る。 建物作業所において工程管理が出来る。 建物作業所において労務管理が出来る。 建物作業所において品質管理が出来る。
授業の概要 達成課題	まず、建築生産の手順を学び、工事に着手するまでの手続きについて学ぶ。 次に、作業所における安全衛生と材料保管について学ぶ。 更に、仮設工事、土工事、鉄筋コンクリート工事の内鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事の順に作業に関わる留意点、管理項目について学ぶ。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 建築生産
 第2週 施工者の選定
 第3週 工事に着手
 第4週 安全衛生管理
 第5週 建築材料の保管と管理
 第6週 仮設工事、準備工事
 第7週 土工事
 第8週 地業、基礎工事
 第9週 鉄筋コンクリート工事 概説
 第10週 鉄筋コンクリート工事 鉄筋工事（材料）
 第11週 鉄筋コンクリート工事 鉄筋工事（加工）
 第12週 鉄筋コンクリート工事 型枠工事（型枠の構成）
 第13週 鉄筋コンクリート工事 型枠工事（型枠の組み立て）
 第14週 鉄筋コンクリート工事 コンクリート工事（材料、施工）
 第15週 鉄筋コンクリート工事 コンクリート工事（品質管理）

成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	初学者の建築講座 建築施工 第3版（市ヶ谷出版）
参考書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料（実教出版）
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築施工Ⅱ			海子 揮一	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	建物生産の手順、必要な知識を理解する。 建物作業所において安全管理が出来る。 建物作業所において工程管理が出来る。 建物作業所において労務管理が出来る。 建物作業所において品質管理が出来る。
授業の概要 達成課題	まず、鉄骨工事における主体架構の工場製作について学ぶ。 次に、鉄骨工事における主体架構の現場施工について学ぶ。 更に、鉄骨工事における床、鉄骨階段の施工について学ぶ。 最後に、各種仕上げ施工について、管理項目を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 鉄骨工事 概説 第2週 鉄骨工事 工場製作（製作工場の選定） 第3週 鉄骨工事 工場製作（現寸検査） 第4週 鉄骨工事 工場製作（溶接法） 第5週 鉄骨工事 工事現場施工（搬入、受け入れ） 第6週 鉄骨工事 工事現場施工（足場） 第7週 鉄骨工事 工事現場施工（高力ボルト接合、現場溶接） 第8週 鉄骨工事 床 第9週 鉄骨工事 鉄骨階段 第10週 屋根、防水工事 第11週 仕上げ工事 仕上げ工事の考え方、タイル、石工事 第12週 仕上げ工事 ガラス工事 第13週 金属工事 第14週 塗装・吹き付け工事 第15週 設備工事	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	初学者の建築講座 建築施工 第3版（市ヶ谷出版）
参考書	ビジュアルハンドブック 必携建築資料（実教出版）
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築設備Ⅰ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	給排水衛生設備、空気調和設備、電気設備についての機能、各システムの種類と内容を理解する。 建築の設計において、必要な給排水・衛生設備について計画できる。給水、給湯、排水設備の基本的配管方法を身に付け配管図を読むことができる。 ※1級管工事施工管理技士として、建築設備（設計及び管理）の経験を持つ教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	まず、建築計画における建築設備の必要性について学ぶ。 次に、水道水の水質基準から給水、給湯、排水に関する設備を学ぶ 更に、給水給湯設備の配管図を読むこと簡単な配管図を描くことができるようにする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 建築設備とは 第2週 給水設備・・・上水道施設～給水量の計算 第3週 給水設備・・・給水方式～管材および配管方法 第4週 給水設備・・・高層建築物への給水方法 第5週 給湯設備・・・湯の性質～ボイラの種類 第6週 給湯設備・・・給湯方式～管材および配管方法 第7週 給水給湯設備のまとめ 第8週 排水通気設備・・・排水方式～管材および配管方法 第9週 排水通気設備・・・排水勾配について 第10週 排水通気設備・・・トラップ～管径計算 第11週 排水通気設備・・・排水金物および通気金物 第12週 排水通気設備・・・屋外排水設備 第13週 衛生器具類 第14週 排水通気設備のまとめ 第15週 給排水衛生設備の総まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	初学者の建築講座 建築設備 第3版（市ヶ谷出版）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築設備Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	消防設備などの防災設備、空気調和設備、電気設備についての機能、各システムの種類と内容を理解する。建築の設計において、必要な消防および空調の技術について計画できる。消防および空調の基本的配管方法を身に着け配管図を読むことができる。2級管工事施工管理技士受験に必要とする知識を理解習得する。 ※1級管工事施工管理技士として、建築設備（設計及び管理）の経験を持つ教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	まず、建築計画における建築設備の必要性について学ぶ。 次に、冷暖房熱源機を含む空気調和設備の機器類、配管などについて学ぶ。 更に、防災設備、空調設備の配管図を読むこと簡単な配管図を描くことができるようにする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 建築設備とは 第2週 建築基準法と消防法 第3週 消防設備・・・消火器～屋内消火栓（1号、2号）放水量の計算およびポンプの選定 第4週 消防設備・・・スプリンクラー設備～放水量の計算 第5週 消防設備・・・自動火災報知機～電源および予備電源 第6週 消防設備・・・自家発電装置 第7週 消防設備および防災設備のまとめ 第8週 空気調和設備・・・気流～換気 第9週 空気調和設備・・・冷暖房負荷計算～熱負荷計算 第10週 空気調和設備・・・各種冷暖房方式および機器類の紹介 第11週 空気調和設備・・・機器類の搬入および据え付け 第12週 空気調和設備・・・熱源の種類および熱源設備 第13週 空気調和設備・・・ダクトの種類およびサイズの計算例 第14週 空気調和設備・・・自動制御装置～動力設備 第15週 防災設備および空気調和設備のまとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価し、60点以上を合格とする。
教科書	初学者の建築講座 建築設備 第3版（市ヶ谷出版）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築法規Ⅱ			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的と到達目標	建築法規Ⅰに引き続き、建築基準法の条文について内容を理解し、読解力をつける。 ・ 防火、避難規定について概要を理解する。 ・ 構造計算の内容や各種構造の構造強度規定について概要を理解する。 ・ 集団規定の目的、概要を正しく理解する。 ・ 集団規定に定められた、概要を正しく理解する。 ・ 上記に関する建築関係法令集の箇所について、条文を適確かつ素早く引けるようになる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築法規実務）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。		
授業の概要 達成課題	前半部は建築法規Ⅰに引き続き、単体規定の内容を進める。 災害時等における建築物の安全性について定めた規定が避難規定である。この避難規定について条文を解説する。 また、様々な荷重における建築物の安全性について定めた規定が構造強度規定である。この構造強度規定について条文を解説する。 後半部は“都市を構成する建築物”という視点で建物を捉えた集団規定について、条文を解説し、まとめとする。 該当する条文を正しく読解できるように、法令集にマークしながら的確に引く方法を解説する。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第1週	ガイダンス	法規Ⅰの復習	
第2週	防火、避難規定①（大規模木造建築物等）	防火、避難規定②（防火区画、界壁間仕切り壁）	
第3週	防火、避難規定③（耐火建築物）	防火、避難規定④（内装制限）	
第4週	防火、避難規定⑤（廊下、避難階段の適用範囲）	防火、避難規定⑥（特別避難階段等の設置）	
第5週	防火、避難規定⑦（排煙設備、非常照明等）	防火、避難規定⑧（中間試験（1））	
第6週	防火、避難規定のまとめ	構造強度規定①（構造計算の原則、木造）	
第7週	構造強度規定②（組積造、鉄骨造）	構造強度規定③（鉄筋コンクリート造等）	
第8週	構造強度規定④（組積造、鉄骨造）	構造強度規定のまとめ	
第9週	集団規定の概要	道路（道路の種類、みなし道路、指定道路）	
第10週	用途地域	防火地域、準防火地域	
第11週	容積率	建ぺい率	
第12週	集団規定①（中間試験（2））	集団規定①のまとめ	
第13週	高さの制限①（道路斜線、絶対高さ制限）	高さの制限②（隣地斜線制限、北側斜線制限）	
第14週	高さの制限③（日影規制）	基準法その他の規定	
第15週	集団規定②（中間試験（3））	集団規定②のまとめ	
成績評価方法	・ 中間試験（30％） ・ 期末試験（70％） ※全試験において『基本建築関係法令集』の持込みが可能です。		
教科書	『2021年度版建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 初学者の建築講座 建築法規／学芸出版社		
参考書	プリントを配布することもあります。		
備考	『建築関係法令集』の重要な箇所に直接線を引きながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。欠席した際は、次回授業までに担当教員から配布プリント等を受け取り、授業時間内で法令集に線を引いた箇所を補うなど自宅学習してください。		

科目名			担当者	
建築法規Ⅲ			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・ 建築法規Ⅰ及び建築法規Ⅱで学んだ法令について、問題演習を通して内容の理解を深める。 ・ 各建築関連法規（バリアフリー新法、耐震改修促進法、建築士法等）について目的や概要を理解する。さらに法令文を正しく読解できる。 ・ 二級建築士試験問題の出題形式に慣れる。さらに解答を導き出せるように法令文を正しく読解できる。 ※建築設計事務所を開設し、建築設計（建築法規実務）の経験のある一級建築士の教員が授業を担当する。
授業の概要 達成課題	前半部では建築法規Ⅰ及び建築法規Ⅱで学んだ法令について復習をした後、演習問題の解答の仕方を解説する。これによって二級建築士試験の出題傾向や解答方法に関する基礎知識を得ることができる。 次に、建築基準法以外の建築関連法規（バリアフリー新法、耐震改修促進法、建築士法等）について法の目的や概要を説明する。また該当する条文を正しく読解できるように、法令集にマークしながら的確に引く方法を解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス／建築基準法復習①（面積、高さの算定方法） 第2週 建築基準法復習②（一般構造規定） 第3週 建築基準法復習③（構造強度規定） 第4週 建築基準法復習④（防火、避難規定） 第5週 建築基準法復習⑤（建ぺい率、容積率） 第6週 建築基準法復習⑥（高さ規定） 第7週 建築基準法復習⑦（確認、届出等の手続きに関する規定） 第8週 建築基準法復習⑧（単元テスト①） 第9週 建築関連法規①（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）） 第10週 建築関連法規②（建築物の耐震改修の促進に関する法律） 第11週 建築関連法規③（建築士法） 第12週 建築関連法規④（建設業法、住宅の品質確保の促進に関する法律） 第13週 建築関連法規⑤（都市計画法） 第14週 建築関連法規⑥（単元テスト②） 第15週 まとめ	
成績評価方法	・ 単元テスト①②の合計（40%） ・ 期末テスト（60%） ※全テストにおいて『基本建築関係法令集』の持込みが可能です。
教科書	『2021年度版建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 初学者の建築講座 建築法規／学芸出版社
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	『基本建築関係法令集』の重要な箇所に直接線を引きながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。欠席した際は、次回授業までに担当教員から配布プリント等を受け取り、授業時間内で法令集に線を引いた箇所を補うなど自宅学習してください。

科目名			担当者	
構造力学Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	建物に加わる様々な力によって発生する、建物の部材応力を理解する。 様々な力によってトラス部材に発生する反力、応力を算出できる。 断面の諸性能を理解した上で、部材に生じる応力度、ひずみ度を算出できる。 不静定構造物の梁に生じる変形を、モーメントの定理で算出できる。 不静定構造物に生じる応力を固定法と、武藤清博士のD値法で解析できる。 建物の計算過程で剛性率、偏心率、層間変形角を算出できる
授業の概要 達成課題	まず、トラスの解析法として節点法と切断法を学ぶ。 次に、断面の諸性能を学び、それを用いて、部材内に生じる応力度、ひずみ度を理解する。 更に、不静定構造物の変形を学び、不静定構造物の鉛直荷重時応力を固定法で、水平荷重時応力を武藤博士のD値法で解析する。 最後に、不静定構造物の剛性率、偏心率、層間変形角の計算法を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 静定トラス①(節点法) 第2週 静定トラス②(切断法) 第3週 部材に生じる応力度① (応力度、ひずみ度) 第4週 断面の性質① (断面1次モーメント、図心位置) 第5週 断面の性質② (断面2次モーメント) 第6週 断面の性質③ (断面係数、断面2次半径) 第7週 まとめ 中間試験 第8週 部材に生じる応力度② (曲げ応力度、せん断応力度) 第9週 部材に生じる応力度③ (軸方向応力度、曲げ応力度) 第10週 部材に生じる応力度④ (座屈) 第11週 部材に生じる応力度⑤ (断面の核) 第12週 不静定構造物 (梁の変形、モーメントの定理) 第13週 不静定構造物 (不静定梁の解法) 第14週 不静定構造物の解法 (固定モーメント法) 第15週 不静定構造物の解法 (剛性率、偏心率、層間変形角の計算)	
成績評価方法	中間試験 (40%)、期末試験 (60%) にて評価する。 確認テストをすべて受験した者を評価対象とする。
教科書	図解 レクチャー 構造力学 (学芸出版社)、「構造力学演習用教材」東北文化学園専門学校
参考書	
備考	講義スケジュールを確認し、講義内容の範囲は教科書を一読してから授業に臨んでください。 欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。

科目名			担当者	
設計製図ⅢA			齊藤 彰	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	有

授業の目的 と 到達目標	鉄筋コンクリート建築物の基本的な構造を理解し、作図法を身につける。 鉄筋コンクリート建築物の通り心と壁心に関係づける。 鉄筋コンクリート建築物の平面図を作図できる。 鉄筋コンクリート建築物の立面図を作図できる。 鉄筋コンクリート建築物の断面図を作図できる。 ※一級建築士として建築設計（設計製図）の経験を持つ教員が授業を指導する。
授業の概要 達成課題	まず、鉄筋コンクリート建築物の基本図と言われる、平面図、立面図、断面図を作図することにより、基本的な構造を学ぶ。 次に、仕上げ表を書くことにより、鉄筋コンクリート建築物に一般的に用いられる仕上げを学ぶ。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週 ガイダンス 設計課題1 RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図
 第2週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図
 第3週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」配置図・平面図（S=1/100）作図、提出
 第4週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」立面図・断面図（S=1/100）作図
 第5週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」立面図・断面図（S=1/100）作図、提出
 第6週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図
 第7週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図
 第8週 設計課題1 RC造「店舗付事務所」階段詳細図（S=1/30）作図、提出
 第9週 設計課題2 木造住宅 天井伏図（S=1/100）作図、提出
 第10週 設計課題2 木造住宅 展開図（S=1/100）作図
 第11週 設計課題2 木造住宅 展開図（S=1/100）作図、提出
 第12週 設計課題2 木造住宅 建具表（S=1/50）作図
 第13週 設計課題2 木造住宅 建具表（S=1/50）作図
 第14週 設計課題2 木造住宅 建具表（S=1/50）作図、提出
 第15週 まとめ

成績評価方法	提出された課題作品で評価する。
教科書	配布資料
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
設計製図ⅢB			千葉 託巳	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	45時間	必修1.5単位	有

授業の目的 と 到達目標	・二級建築士設計製図試験において合格するために必要な製図力を身につける。 ・要求される図面の適切な作図手順・表現方法を身につける。 ・要求される図面を所定の時間内に完成できる作図スピードを身につける。
授業の概要 達成課題	・本試験の合否判定における採点のポイント、採点結果の区分、合格基準について解説する。 ・過去の本試験課題の答案例を参考にして繰り返し模写練習を行う。 ・答案例からプランを写し取り、それをエスキスとして要求図面一式を作図する。そのとき各図毎に目標時間を定めて時間を区切って作図練習を行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 設計製図試験の概要(試験制度・特徴、不合格図面について、出題傾向) 第2週 [製図トレーニング-1] 1階平面図・配置図の練習-a/2階平面図の練習-a 第3週 [製図トレーニング-2] 1階平面図・配置図の練習-b/2階平面図の練習-b 第4週 [製図トレーニング-3] 立面図の練習/断面図の練習/面積表の練習 第5週 [製図トレーニング-4] 2階床伏図・1階小屋伏図の練習-a 第6週 [製図トレーニング-5] 2階床伏図・1階小屋伏図の練習-b 第7週 [製図トレーニング-6] かなばかり図の練習-a 第8週 [製図トレーニング-7] かなばかり図の練習-b 第9週 [トレース-A] 一式図面 第10週 [トレース-B] 一式図面 第11週 [トレース-C] 一式図面 第12週 [エスキス製図-A] プランの写し取りから一式図面 第13週 [エスキス製図-B] プランの写し取りから一式図面 第14週 [エスキス製図-C] プランの写し取りから一式図面 第15週 試験課題(プランの写し取りから一式図面)	
成績評価方法	提出された課題作品で評価する。
教科書	
参考書	
備考	練習課題、製図用紙を配布します。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学習し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
設計製図ⅣA			佐竹 正行 早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	学外のコンペの出展を最終目標とする。 社会情勢などを踏まえた設計計画を提案し、総合的な設計手法を身につけることができる。 設計作品を第三者に伝えられる、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業の概要 達成課題	コンペ課題に沿っての建築計画の提案をする。 様々の視点から課題に向かい、建築的な回答をします。作品はグループ製作になる。 授業ごとに教員の指導アドバイスのもと、指導を受ける。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	ガイダンス、昨年度の作品と紹介
第2週	課題についての調査
第3週	計画案調査発表
第4週	計画案検討
第5週	↓
第6週	↓
第7週	↓
第8週	↓
第9週	中間プレゼンテーション
第10週	計画案検討
第11週	↓
第12週	↓
第13週	↓
第14週	↓
第15週	最終プレゼンテーション

成績評価方法	提出作品、発表にて評価する。
教科書	
参考書	授業中に配布する。
備考	

科目名			担当者	
設計製図ⅣB			佐竹 正行 早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	卒業制作展の出展を最終目標とする。 社会情勢などを踏まえた設計計画を提案し、総合的な設計手法を身につけることができる。 スケジュール管理、作業分担等を身につけることができる。 設計作品を第三者に伝えられる、プレゼンテーション能力を習得できる。
授業の概要 達成課題	各自で設定する、社会情勢などを踏まえた建築設計計画の提案をしてもらいます。 様々の視点から課題に向かい、建築的な回答をします。作品はグループ、個人でも構わない。 授業ごとに教員の指導アドバイスのもと、指導を受ける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 卒業制作テーマの設定 第2週 ↓ 第3週 場所の個性を発見する、問題点と可能性をさぐる 第4週 計画案検討 第5週 ↓ 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 ↓ 第9週 中間発表会 第10週 計画案検討 第11週 ↓ 第12週 ↓ 第13週 ↓ 第14週 ↓ 第15週 後期末発表会	
成績評価方法	提出作品、発表にて評価する。
教科書	
参考書	プリントを配布することもあります。
備考	

科目名			担当者	
総合設計			齊藤 彰	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	・ 二級建築士設計製図試験に向けて 設計課題文を的確に読み取ることができる読解力を身につける。 設計条件を満たす建築物を計画できるプランニング力を身につける。
授業の概要 達成課題	・ 二級建築士設計製図試験の過去の設計課題から 課題テーマの整理と出題分析、各部の計画、屋外施設の計画、構造計画等の留意点を解説する。 過去の設計課題と答案例をもとにして合理的なプランニングの実例を解説する。 プランニングを実践する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ・ 二級建築士設計製図試験の概要(試験制度・特徴・出題傾向) 第2週 ・ 関連法規の概要確認 第3週 ・ 計画の進め方-1(課題文の読み取り方) 第4週 ・ 計画の進め方-2(建物規模の把握) 第5週 ・ 計画の進め方-3(配置計画と外部動線) 第6週 ・ 計画の進め方-4(平面計画) 第7週 ・ ケーススタディ A(課題の読み合わせ～エスキス) 第8週 プラン作成・解説 第9週 ・ ケーススタディ B(課題の読み合わせ～エスキス) 第10週 プラン作成・解説 第11週 ・ ケーススタディ C(課題の読み合わせ～エスキス) 第12週 プラン作成・解説 第13週 ・ ケーススタディ D(課題の読み合わせ～エスキス) 第14週 プラン作成・解説 第15週 まとめ	
成績評価方法	・ プランニングの成果品で評価する。
教科書	
参考書	
備考	資料プリントを配布する。 欠席の際は後日担当者から直接プリント等を受け取り、自主学習し次回の授業に備えること。

科目名			担当者	
プレゼンテーション演習Ⅰ			早坂直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的 と 到達目標	既存の建物を調査し、第三者にその建物をわかりやすく説明できることを目標にする。 ・ プレゼンテーション用アプリケーションの操作を習得できる。 ・ 建築設計計画を第三者に伝えられるプレゼン能力が身につく
授業の概要 達成課題	プレゼンテーション用アプリケーションで、各自自由に設定する建物を調査し プレゼンテーションデータをまとめる。 DTPソフトを使いプレゼンテーションボードをまとめる基本を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 授業概要の説明 第2週 有名建築物のプレゼンテーションの作成 第3週 ↓ 第4週 ↓ 第5週 ↓ 第6週 ↓ 第7週 プレゼンテーションボードの作成 第8週 ↓ 第9週 ↓ 第10週 ↓ 第11週 ↓ 第12週 パースの作成 第13週 ↓ 第14週 ↓ 第15週 ↓	
成績評価方法	課題作品で評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
プレゼンテーション演習Ⅱ			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的 と 到達目標	設計製図ⅣBで行う卒業制作展の作品製作を目的とする。 ・ 建築設計計画を第三者に伝えられるプレゼン能力が身につく
授業の概要 達成課題	設計製図ⅣBで行う、教員の指導のもと、デジタルデータに変換しプレゼンテーションデータを作成していきます。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 卒業制作テーマの検討 第2週 ↓ 第3週 ↓ 第4週 計画案作図 第5週 ↓ 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 中間発表用プレゼンボードまとめ① 第9週 中間発表用プレゼンボードまとめ② 第10週 計画案作図 第11週 ↓ 第12週 ↓ 第13週 ↓ 第14週 後期末発表会用プレゼンボードまとめ① 第15週 後期末発表会用プレゼンボードまとめ②	
成績評価方法	課題作品で評価する。
教科書	
参考書	授業で配布するがあります。
備考	

科目名			担当者	
測量学Ⅱ			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	45時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	基本測量に使用するトータルステーションの据付作業を身につける。 トータルステーション機材の特徴を理解しそれを自由に扱うことができる。
授業の概要 達成課題	トータルステーション機材の使用法の解説と各種の測量方法について実習を通じて習得する。各種機材を自由に扱えるように十分に実習を行なう。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 三角測量（1） 第2週 三角測量（2） 第3週 三角測量（3） 第4週 三角測量（4） 第5週 三角測量（5） 第6週 三角測量（6） 第7週 地形測量（1） 第8週 地形測量（2） 第9週 地形測量（3） 第10週 地形測量（4） 第11週 地形測量（5） 第12週 地図編集（1） 第13週 地図編集（2） 第14週 地図編集（3） 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	First Stageシリーズ 測量入門（実教出版）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
土木施工			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	土木施工に関する基礎知識と技術について理解して実際の現場で活用できる能力を養う ・ 土木工事の安全管理や環境保護対策について理解できる。 ・ 土木工事における近隣対策を実際に行うことができるようになる。 ・ 各種建設機械の特徴を説明することができる。
授業の概要 達成課題	土木工事における各種基礎技術や基礎知識について解説する。工事の施工段階において必要な工程・安全・品質管理を総合的に解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 河川工事 第2週 砂防工事 第3週 道路舗装 第4週 ダム 第5週 トンネル 第6週 海岸・港湾 第7週 鉄道 第8週 地下構造物 第9週 施工計画：仮設計画 第10週 施工計画：施工計画 第11週 工程管理：工程管理プログラム 第12週 工程管理：工程図表 第13週 安全管理：労働災害と労働安全衛生法 第14週 安全管理：建設機械の安全対策 第15週 品質管理：材料搬入計画	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	「2級土木施工管理技士 重点テキスト」令和4年度版（市ヶ谷出版）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
土質工学			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	安定な構造物を設計・施工するために地盤を形成する土の諸性質を理解する。 ・各種の土の性質及び特性を理解して説明できる。 ・土圧計算をして簡単な構造物の基礎を設計することができる。
授業の概要 達成課題	土の性質・特性について詳しく解説を行い土圧計算等の計算を通して土の評価法を考察する。 専門基礎学力の学習として練習問題を取り入れ解説を加える。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス 第2週 土の基本性質 第3週 土の性質（1） 第4週 土の性質（2） 第5週 土の分類 第6週 土の締め固め特性 第7週 土の透水性（1） 第8週 土の透水性（2） 第9週 土の有効応力 第10週 土の圧縮特性 第11週 圧密（1） 第12週 圧密（2） 第13週 圧密（3） 第14週 圧密沈下の評価 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	絵とき土質工学 改訂2版（オーム社）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
水理学			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	建設業で必要な治水・利水についての基本事項を理解する。 ・ 水の性質と特徴を説明することができる。 ・ 管水路・開水路の特徴を理解する。
授業の概要 達成課題	基本的な水の性質や流水・静水圧・動水圧についての解説を行い水理の知識を身につける。 管工事施工管理技士試験に必要な知識解説を行なう。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 水について（概要） 第2週 単位について 第3週 静水圧・・・水深と水圧 第4週 静水圧・・・マンメータ 第5週 パスカルの原理 第6週 水圧機 第7週 流水の性質 第8週 流水の性質・・・流速と流量 第9週 ベルヌーイの定理（1） 第10週 ベルヌーイの定理（2） 第11週 動水勾配 第12週 損失水頭 第13週 摩擦損失水頭 第14週 ダルシーワイズバッハの式 第15週 まとめ	
成績評価方法	期末試験にて評価する。
教科書	水理学の基礎 第2版（技報堂出版）
参考書	
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
資格対策講座（2級建築施工）			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	選択 1単位	有

授業の目的 と 到達目標	2級建築施工管理技術検定（第一次検定）の合格を目標とする。
授業の概要 達成課題	各担当が分野ごとに講義を行います。 在学中は学科のみが受験可能になります。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 インTROダクト（施工管理技士について） 第2週 一般構造 第3週 構造力学1 第4週 構造力学2 第5週 建築材料 第6週 機械、電気設備 第7週 土工事、仮設工事 第8週 駆体工事1 第9週 駆体工事2 第10週 駆体工事3 第11週 仕上げ工事1 第12週 仕上げ工事2 第13週 仕上げ工事3 第14週 施工管理法1（施工計画、工程管理、品質管理） 第15週 施工管理法2（施工計画、工程管理、品質管理）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座(福祉住環境)			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	選択 1単位	無

授業の目的 と 到達目標	・高齢社会という社会背景を踏まえ、住環境整備に対する知識と技術の習得を目的とする。 ・福祉と医療と住環境がどのように関連しているかに重点を置く。 ・福祉住環境コーディネーターとしての知識の習得ができる。
授業の概要 達成課題	福祉住環境コーディネーター3級合格を目標とする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス 車椅子実習 第2週 福祉用具実習その1(電動車椅子、各種リフト、など) 第3週 福祉用具実習その2(階段昇降機、福祉車両 など) 第4週 校外学習(萩の郷) 第5週 校外学習(ユニバーサルデザイン見学) 第6週 検定対策① 第7週 検定対策② 第8週 検定対策③ 第9週 検定対策④ 第10週 検定対策⑤ 第11週 検定対策⑥ 第12週 模擬試験① 第13週 模擬試験② 第14週 模擬試験③ 第15週 試験解説	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	新版 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト(東京商工会議所)
参考書	授業で配布する。
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座(CAD検定)			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	選択 1単位	無

授業の目的 と 到達目標	建築CAD検定3級の合格を目標とする。
授業の概要 達成課題	CADシステムの基本的な知識と仕事の現場での利用方法を身につける。 PCの基本的知識の向上。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 ガイダンス 第2週 CADシステムの知識と利用 第3週 ↓ 第4週 ↓ 第5週 CADシステムのプラットフォーム 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 CADシステムの関連知識 第9週 ↓ 第10週 製図の知識 第11週 図形 第12週 過去問題 第13週 ↓ 第14週 ↓ 第15週 ↓	
成績評価方法	検定試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	オリジナルプリント、過去問題プリントを配布します。
参考書	
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座（2級土木施工）			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	2級土木施工管理技術検定試験には過去の重要な要素について幅広く出題される。このため過去の問題を理解し必要な知識を身につけることができる。 ・ 以前から出題傾向が多い問題について計算・説明をすることができる。
授業の概要 達成課題	過去の2級土木施工管理技術検定試験に出題された問題の解説を行う。練習問題を繰り返して解くことにより検定試験の合格を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 既出問題の解き方と解説（1） 第2週 既出問題の解き方と解説（2） 第3週 連取問題及び解説（1） 第4週 練習問題及び解説（2） 第5週 既出問題の解き方と解説（3） 第6週 既出問題の解き方と解説（4） 第7週 練習問題及び解説（3） 第8週 練習問題及び解説（4） 第9週 既出問題の解き方と解説（5） 第10週 既出問題の解き方と解説（6） 第11週 練習問題及び解説（5） 第12週 練習問題及び解説（6） 第13週 既出問題の解き方と解説（7） 第14週 総合問題（1） 第15週 総合問題（2）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	使用しない。
参考書	適時にプリント配布
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座（2級管工事）			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30 時間	選択 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	2級管施工管理技術検定試験には過去の重要な要素について幅広く出題される。このため過去の問題を理解し必用な知識を身につけることができる。 ・ 以前から出題傾向が多い問題について計算・説明をすることができる。
授業の概要 達成課題	過去の2級管施工管理技術検定試験に出題された問題の解説を行う。練習問題を繰り返して解くことにより検定試験の合格を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 既出問題の解き方と解説（1） 第2週 既出問題の解き方と解説（2） 第3週 連取問題及び解説（1） 第4週 練習問題及び解説（2） 第5週 既出問題の解き方と解説（3） 第6週 既出問題の解き方と解説（4） 第7週 練習問題及び解説（3） 第8週 練習問題及び解説（4） 第9週 既出問題の解き方と解説（5） 第10週 既出問題の解き方と解説（6） 第11週 練習問題及び解説（5） 第12週 練習問題及び解説（6） 第13週 既出問題の解き方と解説（7） 第14週 総合問題（1） 第15週 総合問題（2）	
成績評価方法	本試験に合格した学生のみ評価する。
教科書	使用しない。
参考書	適時にプリント配布
備考	

科目名			担当者	
建築士講座			佐竹 正行	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 1単位	有

授業の目的 と 到達目標	・卒業後に受験資格が得られる、二級建築士の「学科の試験」の対策を実施する。
授業の概要 達成課題	・二級建築士の「学科の試験」の問題を通じて、傾向と対策を行う
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第1週 学科Ⅰ 建築計画 建築計画原論 第2週 学科Ⅰ 建築計画 建築計画各論 第3週 学科Ⅰ 建築計画 建築設備 第4週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・総則 第5週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・一般構造等 第6週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・構造強度 第7週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・防火関係 第8週 学科Ⅱ 建築法規 建築基準法・都市計画区域等の制限、雑則等 第9週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 構造設計 第10週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 各種構造 第11週 学科Ⅲ 建築構造 構造力学 建築材料 第12週 学科Ⅳ 建築施工 施工管理 第13週 学科Ⅳ 建築施工 各部工事① 第14週 学科Ⅳ 建築施工 各部工事② 第15週 学科Ⅳ 建築施工 用語	
成績評価方法	レポートで評価する。
教科書	
参考書	授業で配布する。
備考	